

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400248		
法人名	医療法人 宏友会		
事業所名	グループホーム元気村 I		
所在地	愛知県半田市浜田町3-10-5		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)
所在地	愛知県名古屋市中種区内山1丁目11番16号
訪問調査日	平成21年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の場所へ移転以降、アセスメントやケアプランの策定・評価には、十分に力を入れている。アセスメントでは、センター方式を用いたアセスメントチーム(4名)からあらゆる角度で利用者様の立場に立ったプランを作れるようにしており、評価では一ヶ月毎に定期的に取り組み、柔軟な対応ができるようにしている。6ヶ月に一度家族懇談会を開き、利用者様とご家族またはご家族同士に交流の機会を設けている。2ヶ月毎の運営推進会議では、アンケートを基に運営方法の転換や事故内容の報告など開かれた施設を目指している。基本的な介護面としては、3大介護を重点的に行っている。排泄では、一人ひとりに合わせた誘導・介助方法で対応し、入浴では1日おきの人から毎日の人と、食事は、食事形態も柔軟に対応できるなど一人ひとりの利用者様に合った方法で、個別に取り組んでいる。工業地帯という立地条件ではあるが、隣のショッピングセンターを活かし、散歩しつづ買い物に出掛けられる特色も出せている。その人らしい生活をしていただけるよう、その人のペースを大切にし、理解して思いを共有できる様に行動をなるべく束縛せず、自由に過ごしてもらえよう日々職員同士、上司と話し合いながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念について話し合い、日々のケアについて職員の意識統一を図っている。運営推進会議で出された意見・要望、家族会等で出される家族の意見や要望等を、運営に活かした取り組みをしている。利用者とは職員とが1対1で外出するスペシャルデーを年2回実施している。馴染みのある場所を訪れることもあり、継続的な交流ができるように支援している。また重度化や終末期の看取りに関しての事前確認書の見直しを3か月ごとに変更し、実状にあった対応ができるようにしている。神経内科の協力医の往診があり認知症にも対応している。ホーム内に懐古室があり懐かしい道具に触れることもできる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なミーティング、毎朝にて話し合い意識づけ合う 入り口に掲示してある 「ゆったり自由に笑って過ごせるように」と理念を作っており実践されている。 理念をもとにそうなるように努めている やれる事は精一杯させてもらっているが、事業主や施設長から求められている事がハッキリしない事もありあんまりうまくいっているとは思えない 	職員全員で理念の共有と実践に努めている。利用者はゆったりと自由に過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議をしているが周りは商業地域で住宅はなく日常的な交流が難しい 日常的な交流はあまり出来ていないが買い物やその他の地域でまかなえる物は利用している 出来ていない 	自治会加入はなし。地域のボランティアや中学生の職場体験を受け入れている。隣接するスーパーへ出かけた際には、地域の人と挨拶や言葉を交わしている。推進会議で地域との関わりとして区民展やスーパーへの作品展示などの具体的な取り組み案が出ている。	ボランティアや中学生の受け入れの継続と作品展示の実現を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議などを通じて理解や支援をお願いしている 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に一度必要に応じてアンケートや意見を頂いている 利用者、家族はもちろん近隣の方々を招いて取り組み内容の報告、評価をしている 運営推進会議などは議事録を残している 	利用者家族、地域住民、半田市介護保険課職員等の出席で2カ月に1度開催している。状況報告や意見・要望等が出されサービスに活かすよう努めている。またアンケートの結果、家族会の開催を6ヶ月ごととし、また推進会議の日程を選ぶことができるように変更した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議に出席していただいている今の状況は伝わっている 出来ていない 	運営推進会議の開催は平日ではなかったが毎回出席があり、日頃よりメールのやり取りもしている。状況報告をし情報を得る等、協力関係を築くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・殆どしておらず身体の危機時に必要書類はあるが、データをとった上で必要性があった時に家族説明、時間、場所等具体的内容を書く。 ・自由に行動できるよう努力している ・身体拘束はしていないが玄関の施錠はやむをえずやっている(離設等により) ・職員は正しく理解しているかはわからないが身体拘束はしていない 	<p>利用者は自由に行動しており、身体拘束は見られなかった。昨年の外部評価でエレベーター前のアコーディオンカーテンについて来訪者が戸惑わない工夫の検討をしてほしいとあったが、改善には至っていない。(エレベーターに乗りドアが開くと目前にアコーディオンカーテンがある。)</p>	<p>職員でエレベーター前の工夫について話し合っただけ。</p>
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修がある場合は受講し、されていない方へも受講した職員は、伝達している。 ・日頃より傷、内出血等の報告利用者への観察を怠らない ・毎日の申し送りなどで個々の状態は報告連絡で話し合っている ・利用者様の身体変化(あざなど)には常に注意している 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族へ必要書類内容説明、医師へも報告書類への内容記載依頼を随時行っている ・毎月ミーティングや勉強会で実践している ・学ぶ機会があったのかもしれないが、よくわからない。しっかりとわかるようにしたい 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、ご本人や家族会などを通じてお話して理解、納得できるようにしている ・よくわからない 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議、家族会、ミーティングを通じて反映している ・意見箱があり苦情などがあれば、申し送りやミーティングで話し合いする ・やれている 	<p>運営推進会議や家族会の時に意見や要望を聴き、運営に反映させるように努めている。例えば、日々の生活に歩行訓練を取り入れたり、利用者と職員が1対1で外出する企画の回数を増やす等している。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一度のミーティングを行っている ・事業主もミーティングへ参加し、内容報告、反映している 	<p>ミーティング時に意見を聴くようにしている。また管理者のノートに何でも記入できるようにしているため、途中経過や結果の報告となり職員の意見を反映させている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・わからない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新人育成のチェック表がある ・書面で育成マニュアルが作成しており、チェックシートを使い新人教育を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者との交流はない ・仕事が終わってから法人内の研修やお話を聞く機会を作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・表情や様子、ご家族からの情報でその都度状況を理解して、そのときしてほしい事、しなくてはいけない事は考えて動くようにしている ・責任者がご家族・本人に面談している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・日々の面接時、家族会で信頼関係ができるよう努力している ・利用前の面談でご家族、ケアマネ等より希望や情報交換など行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・できるようにご家族の話や本人の様子を見て出来るよう努力している ・利用者様、ご家族の希望や状況等に合わせ法人内の他の施設等とも相談していると思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様との関わりの中で学ばせて頂いたりしながら日々の仕事をさせていただいている ・利用者様のお話に耳を傾けている、反省・学ぶ事も多いがよい関係が築けていると思う。 ・日々、お話しする上で色々な事を尋ねたり相談したりしている 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会の実施や元気村メール等でお知らせしている、また来所されたときは利用者様の様子をお伝えしている ・家族会や訪問時に利用者様の様子をお話している ・元気村メールの発行 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様とお話して頂いた中でご希望や思いなどを汲み取りご家族にお伝えしている ・出来ているかはわからないが利用者様の訴えがあれば、ご家族にお話している。 ・ご家族以外の方の面会や地域の人とのふれあいを通じてしている 	スペシャルデー(利用者職員が1対1で外出する企画)を利用して馴染みの場所に出かける利用者がある。また同じ建物内のデイサービスやリハビリを利用した知りあいが訪ねてくることもある。隣接するスーパーへ買い物に出かけることも馴染みの人や場所との関係が途切れない支援になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・レクや行事等一緒にして頂ける機会を設けその中で利用者様同士の関わりを手助けできるようにしている ・利用者同士の関係は常に気を配っている。レクなどを通してお話できるようにしたり、声掛けをしている ・職員同士、申し送りを密にし孤立しないようにしている 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人より伝わらないときはご家族や近い方からの情報を招集して希望や意向を把握できるよう努めている ・ケアプランやマンスリーの更新 ・定期的に検討している	言葉による意思疎通が図れない利用者は表情や態度から本人の希望や意思が確認できたとき、その場で対応できる場合はその場で対応し、その行為に関して記録をとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人より伝わらないときはご家族や近い方からの情報を招集して希望や意向を把握できるよう努めている ・ご家族や本人にお話をお聞きしている ・アセスメント作成で伺っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・気づいた点あれば職員で話し合いしている ・日誌やカルテに記入し、毎日申し送りで全員が把握するようにしている ・各自気持ちよく過ごしていただけるようその人にあった声の掛け方や誘い方をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプラン、マンスリーで現状にあった介護支援ができるようしている ・担当者が援助計画、マンスリー他の職員にも意見を聞いたりしている ・チームでは出来ていないと思う ・ケアプラン・マンスリーを作成、日々利用者様に変化があれば話し合いチェック見直しをしている	全職員で状況を把握し、ケアプランやマンスリー経過・評価シートは職員誰もが書き込めるようになっている。半年に一度の家族会議で検討し意見を聴くことができるように、それに合わせて職員が生活援助計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人の記録、身体の変化など職員が共有し活かしている ・日誌、連絡ノート、カルテへの記録		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・シニアフィットネスやリハビリなど ・1階の診療所やリハビリ等必要に応じて利用していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・特にはないが、消防による防災訓練はしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・週に一度の往診があり、定期の診察している 随時体調不良の方も診察も行っている ・状態によっては、病院受診	神経内科の協力医が往診しており、認知症の利用者にも対応している。また不定期ながら歯科医の往診もある。緊急の場合は同施設内にあるクリニックに受診してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問してくれる看護師あり、何かあればすぐ相談し健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時の情報交換やサマリーなど		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・看取りについての基本方針がある ・意向事前確認書や看取り介護についての同意書をご家族に説明している ・「看取り」についてはご家族の考えもどうなるかわからないので定期的に見直してもらっている	実際に終末期の看取り経験はまだ無いが、医師や看護師、家族の意見も取り入れつつ、3ヵ月に一回見直しを行っている。また終末期の看取りについての勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救急救命講習の参加したり、急変、特変時の対応マニュアルに添って対応している ・訓練はしていない ・連絡、相談方法の確認を緊急時対応マニュアルや情報を取り入れている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に消防設備の検査や訓練をしている	様々な災害を想定し、年に二回、避難訓練を実施している。マニュアルも作成・掲示されている。五日間分の食料を確保している。商業地域にあるグループホームであるため、地域の協力体制はない。	隣接するスーパー等に協力を得られるように働きかけることを検討して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、接遇の標語を担当者が作り職員全体で取り組んでいる ・利用者様への接し方、言葉遣いには気を付けている ・その人が気持ちよく過ごしてもらえるよう声掛けに気をつける 	<p>個人情報に関して勉強会を開催し、全職員がプライバシーに関して正しく理解している。利用者に声をかけるときは、その人に応じた呼びかたで声をかけている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけご本人に意思で行動していただけるよう説明、声掛けをし納得していただいているよう努力している ・話し合っているときにお話をゆっくり聞く事を心掛けている 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・難しいが、ご希望あれば出来るだけ添うようにしている ・毎日の申し送りで個人がそれぞれ望む事ができるようにしている ・スペシャルDAYなどを通じて個人が楽しめるよう支援している 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの美容師がいる ・本人に洋服を選んでもらったりしている 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・できる方には片付けをお願いして共にしている ・おやつ作りや本人の誕生日の時など好きなもの、食べたいものを食べてもらう 	<p>配膳は職員が行うが、食器ふきや片付けは利用者が手伝っている。毎週木曜日は『おやつ作りの日』として、利用者の希望や季節感を重視したおやつ作りを一緒に行っている。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量、水分量をチェックしていると同時にその時の体調に合わせた食事形態をとってもらっている 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアをし清潔に気持ちよく過ごしていただく ・週に一度コップ、歯ブラシの消毒も行っている 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・二時間毎の目安で個人に合わせた時間でトイレ誘導 ・昼間は全員布パンツを目指している ・排泄チェック表などで一人ひとりの排泄リズムを把握できるよう努力している 	利用者の残存機能を活かすように排泄チェック表によりそれぞれの排泄パターンを掴み、声をかけトイレ誘導を行っている。記録は表にまとめて、職員が確認しやすいよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給や腹部マッサージなど行い薬だけに頼らないよう努力している 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭のように夜の入浴は難しいが、二日に一度くらいの割合で入浴して頂いている。 ・希望されれば毎日入浴していただく事も出来る 職員のペースになりがちだが、無理強いせず気持ちよく入浴していただけるよう心掛けている ・入浴剤など使って気分転換できる環境を作っている 	毎日入浴を希望する利用者には、毎日の入浴を提供している。入浴を拒否する利用者には、時間や職員を変更して、できる限り入浴を勧めているが、清拭で対応する場合もある。菖蒲湯やゆず湯などで季節を感じてもらおう努力もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・そのときの体調やその人のリズムに合わせて声掛け、安心して休んでもらう 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬のチェック表を使い個人管理している ・その日の体調変化などは申し送り、記録から確認し変化へ対応している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中で家事を得意な事、好きな事をして頂き、して頂いた事へは感謝の言葉を伝えて張り合いを持って頂けるようお任せするなどしている ・おやつ作りを利用者様と行っている ・一部の方は役割あり 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての方となると無理があり一部の方は買い物や散歩など時々出掛けている ・スペシャルDAYなど利用して一人ひとりの希望に添って安心しながら楽しんで頂けるような日を作っている。 	<p>天気がよければ週2～3回の外出を行っている。買い物は1日おきに隣接したショッピングセンターに出かけている。個人的な外出には年に2度のスペシャルデーで対応している。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のお金の管理は難しいが本人の希望に添えるようご家族へ依頼したりできる葉にでかいものに付き合う努力をしている ・難しい 一部の方のみ大半は管理している 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望するときにご家族へ電話を掛けたり個人宛の手紙は本人に渡している ・一部の方は電話を使っている 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が古く使用困難なところが多い、トイレは夏暑く冬は寒い ・壁には利用者様の作品や季節ごとのカレンダーを作り飾ってある 	<p>トイレの寒さ対策としてファンヒーターで対応している。レクリエーションをかねたカレンダー作りは季節感を大切にしている。懐古室に懐かしい生活道具を展示し、利用者は自由に触れたり、部屋から持ち出すことも出来る。それらの道具に触れながら会話が弾むこともある。</p>	<p>浴室に入るための段差を考慮して欲しい。</p>
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの希望、タイミングに合わせて気持ちよく過ごしてもらえよう居場所へ誘導したり食事を摂る席を替えたりしている ・食事とお茶の時間以外は、思い思いの場所で気楽に過ごして頂けるようにしている 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替えはご家族へ連絡しお願いしている ・個人できる方はご本人で、それ以外は個人が使いやすく居心地よく過ごしてもらえよう努力している ・寝具は家からお持ち頂いたものを使用している 居室内はご自分で写真を貼られたりご家族からの花を飾られたりしておられる 	<p>私物が少ない利用者の居室の場合、部屋の広さが目立ってしまうが、利用者や家族が持ち込んだ私物によって、居室が有効に活用されている部屋もある。</p>	<p>私物の少ない利用者の居室を、グループホームが装飾を工夫し自宅の雰囲気を感じさせるような配慮をして欲しい。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	・ソファやベンチがあり休憩出来る様 になっている ・できるだけ一人ひとりに合わせ自立できる よう支援している		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	住宅地ではなく商業地域にあり、日常的な交流は難しい。自治会の加入はしていない。隣接するスーパーに出かけた際には地域の人と挨拶や言葉を交わしている。また、地域のボランティアや中学生の職場体験を受け入れている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	利用者家族や半田市の職員等の参加で2か月に1度開催している。状況報告をし、参加者からの意見や要望が出される。意見や要望等を運営に活かすよう努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	推進会議の開催が平日開催でないにも関わらず、毎回出席してもらい情報を得る等している。また日頃よりメールのやり取りをし、連携はよく取れている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	運営推進会議や家族会等の際に意見や要望を聴き、またアンケートを実施し、運営に反映させるように努めている。アンケートの結果から家族会を3か月ごとから6か月ごとに開催することに変更した。ホーム便りは毎月出している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域にあり、地域交流がなかなかし難い環境にあるが地域ボランティアや中学生の職場体験を受け入れたり、隣接するスーパーに出かけるなどし地域交流に努めている。運営推進会議は2か月ごとに開催し、利用者家族や半田市の職員等の出席がある。出された意見や要望等を運営に活かすよう努めている。市の職員とは運営推進会議に出席してもらい他に日頃よりメールのやり取りをし、連携は取れている。ホーム便りを毎月出し、家族会を定期的に開催している。利用者や家族等の意見や要望、アンケート実施結果を運営に活かそうと努めている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。